

レジメン名 : mFOLFOX6+ベクティビックス 2週毎(ポンプ)

疾患名 : 大腸がん

投与間隔 (1コース期間) : 14日間

総コース数 : PDになるまで

特記事項 : フィルター付きルート使用、RAS遺伝子野生型

投与順序	レジメン内容 (医薬品名)	投与量	単位 (mg/m ² , V等)	投与方法 (手技)	投与時間 (速度等)	投与日 (Day1等)	備考 (内服薬の用法等)
Rp.	1 生食100mL		1 瓶	点滴静注・メイン	15分	Day1	ルート確保用 フィルター付きセットを使用すること
	パロ/セトロン点滴静注バッグ0.75		1 袋	点滴静注・メイン	15分	Day1	
	2 デキサート6.6mg		1 瓶	点滴静注・メイン	15分	Day1	
	デキサート1.65mg		2 管	点滴静注・メイン	60分	Day1	
	3 ベクティビックス		6 mg/kg	点滴静注・メイン	15分	Day1	
	生理食塩液 100mL		1 本	点滴静注・メイン	2時間	Day1	オキサリプラチンと同時に2時間で投与
	4 生理食塩液 50mL		1 袋	点滴静注・メイン	2時間	Day1	レボホリナートと同時に2時間で投与
	5 5%ブドウ糖 250mL		1 袋	点滴静注・メイン	急速静注	Day1	レボホリナート終了後、全開で投与
	レボホリナート	200	mg/m ²	点滴静注・側管	46時間	Day1	ホーラスのフルオロウラシル終了後46時間で投与 全量140mLとする
	6 オキサリプラチン	85	mg/m ²	点滴静注・側管	46時間	Day1	ホーラスのフルオロウラシル終了後46時間で投与 全量140mLとする
	5%ブドウ糖 250mL		1 袋	点滴静注・メイン	46時間	Day1	持続のフルオロウラシル終了後使用、フラッシュ用
	7 フルオロウラシル	400	mg/m ²	点滴静注・メイン	46時間	Day1	持続のフルオロウラシル終了後使用、フラッシュ用
	生食 50mL		1 本	点滴静注・メイン	46時間	Day1	持続のフルオロウラシル終了後使用、フラッシュ用
	8 フルオロウラシル	2400	mg/m ²	インヒューザー ポンプ	46時間	Day1	持続のフルオロウラシル終了後使用、フラッシュ用
	生食100mL		1 本	点滴静注・メイン	46時間	Day1	持続のフルオロウラシル終了後使用、フラッシュ用
	9 生食シリンジ20mL		1 本	点滴静注・メイン	46時間	Day3	持続のフルオロウラシル終了後使用、フラッシュ用

減量基準

減量規定 (副作用名等)	減量条件 (検査値等)	抗癌剤名	減量割合等 (減量後の割合又は投与量)
好中球減少	500/mm ³ 未満	オキサリプラチンを65mg/m ² に減量	
血小板減少	50000/mm ³ 未満	5-FUを20%減量(ホーラス、持続ともに)	
t-Bil上昇	5mg/dL以上	5-FU	投与中止
皮膚障害	重度(ステロイドの全身投与を要する、又は忍容不能と判断される毒性。抗生剤又は抗真菌剤の静脈注射を要する感染。創面切除術を要する毒性。重篤な有害事象)	ベクティビックス	回復、重症度の程度に応じて中止・減量
低Mg血症	1.2mg/dL以下	ベクティビックス	心電図計測。Mg補充。中止、休薬、減量など検討

参考文献

- ①大腸癌治療ガイドライン 医師用 2019年版
- ②制吐薬適正使用ガイドライン2015年10月(第2版)
- ③改訂第6版がん化学療法レジメンハンドブック